

令和6年度 第1回川崎市社会教育委員会議 教育文化会館専門部会摘録

開催日時：令和6年6月21日(金)

13時30分～15時30分

開催場所：教育文化会館 第2会議室

出席者：〈委員〉山澤委員（部会長）、村社委員（副部会長）、猫橋委員、権守委員、亀澤委員、野口委員、竹内委員、星委員

出席者：〈事務局〉小島館長、北村分館長、平井分館長、石田課長補佐、関口課長補佐、高橋主任（記録）

傍聴者：2名

1 開会

2 事務連絡

傍聴2名。過半数の出席があるため、本日の教育文化会館専門部会は成立。川崎市社会教育委員会議規則第6条第6項による。

3 任命状交付

4 館長あいさつ

5 職員紹介

6 委員自己紹介

7 会長、副会長選出

部会長は、山澤委員 副部会長は、村社委員に決定。

8 議事

（1）川崎市における社会振興事業について

関口課長補佐より説明。

竹内委員）事業のテーマ選定をどのように決めているのか。

関口係長）各区の地域性や抱える課題に沿ったテーマ選定を心掛けている。例えば川崎区の場合は特に独居の高齢者が多いという地域性があるので高齢者対象の講座や引きこもりにならないような仲間づくりをテーマにした内容が多

い傾向がある。ただ、直ぐに解決できるテーマではないので、年によっては他のテーマを重視する等館内で調整をして担当と係長が話し合いメリハリをつけて実施している。

竹内委員） 33 事業あると大変だと思うが、何人体制で実施しているのか。

関口係長） 係長含め 5 人で担当を決めて実施している。

亀澤委員） 前年度の議事録を見て研究テーマについて次年度に繋げていきたいとあったが。

小島館長） 昨年度オープンスペースの有効活用を検討しいろいろなご意見をいただきながら、現在のオープンスペースとなった。今後の教育文化会館の事業や市民の方々の活動に繋げるという事で、専門部会の中で審議を継続する意味ではない。

(2) 教育文化会館、大師分館、田島分館の社会教育振興事業について

・ 関口課長補佐より説明。

竹内委員） チラシで周知していると思うがホームページや SNS を活用して体系的な広報活動を行っているか。

関口係長） 教育文化会館のホームページ、生涯学習財団や関係部署のホームページに掲載もしくはリンクするような形で行っている。講座の内容によっては小・中学校の全生徒に配布する等配布先や方法を変えている。

竹内委員） 「はじめての子育て」などは切実な問題であると考ええる。どのようにアプローチをしているか。

関口係長） 通常の配布先に加えて子育てに関わる施設に直接チラシを持参する等対象の方に情報が届くように工夫している。

村社委員） 障害者社会参加支援事業の「青年教室」の名称だが、長く続いている活動なので年齢層が上がっていると思われる。「青年教室」では年齢が上の方が入りにくいのではないか。参加しやすいように名称を変更してはどうか。

関口係長） 長年この名称で馴染んで愛着を感じている参加者もいるかもしれない。参加者とボランティアに聞き検討したい。

山澤部会長） 「進め！自由研究」で市民自主企画事業の「カワハル企画部」のメンバーが講師のサポートをしているがとても良い事である。

・ 北村分館長より説明（「Hot！するカフェだいし」の活動の動画紹介あり）

山澤部会長） 動画が分かり易かった。

権守委員） チラシ裏面の「穴あきしりとり」も面白い。

村社委員） スマホライフの参加人数と参加年代を伺いたい。

北村分館長） 参加人数は 21 人。年代は申込時に聞いていなかったので把握していない。

山澤部会長） 概ね 50 歳以上となっているから 5、60 代が中心か。

北村分館長) 70 代位が中心と思われる。

・平井分館長より説明。(活動紹介の動画あり)

村社委員) 動画が分かりやすく良かった。

竹内委員) カフェで参加者が少ないとの事だが 6 月は人数が多かったが何か理由があるのか。

平井分館長) 事前申し込みは少なかったが、コンサートの後に実施したところ多くの人の参加があった。

星委員) 色々な事業をやっているのを改めて知った。一つのイベントに多くの人が携わっているのに知る機会が無いのがもったいない。必要な人に情報が入るようにもっと周知できたらと感じた。

平井分館長) 鋭意努力します。

野口委員) いつも工夫して色々な事を実施していて感心している。スマホのニーズは高いので 1 回だけではなく回を重ねて、スマホの良さを果たしても良いと感じた。

平井分館長) スマホ相談会は定員 20 人のところ 23 人の申し込みがあった。サポートボランティアが 14 人いたのでかなり助かった。参加者は殆どが 70 代以上であったが、スマホを購入したが使い方が全く分からない人も数名いて、その人たちには丁寧に説明した。

(3) 今後の会議の進め方について (研究テーマの持ち方について)

小島館長より説明。

・任期の 2 年間で 1 つのテーマを審議してきたが、今期は開催時の委員の皆様の興味関心のある課題や、事務局側から審議して欲しい課題等のテーマを取り上げ審議してはどうか。限られた回数で 1 つのテーマを審議するよりも適宜柔軟にテーマを設定し審議出来るメリットがある。

村社委員) 適宜課題を取り上げた方が弾力的に審議が出来るので良いと考える。

亀澤委員) そもそも研究課題はどのように決まったのか。

小島館長) 決め方は区や任期中の委員によっても変わるものである。教育文化会館の場合は、令和 3 年度市民館・図書館のあり方を教育委員会事務局から出したがその中の施設の有効活用を広めたいという考えに着目して 1 階の通路として使っていたスペースの有効活用を研究課題とした。

野口委員) 今まで課題を決め 2 年間で話し合ってきたので、範囲が広過ぎてどこを切り口にして考えて良いかイメージしにくいところがある。

山澤部会長) 難しいのであれば 1 回目の課題は事務局から提案して貰うのも良いと考える。

小島館長) 委員の皆様から意見が無い場合は事務局から提案したいと考えている。範囲は社会振興事業だけではなく館の運営や市民ニーズに関わる部分も含

まれる。

星委員）研究課題は毎年 1 回目に決めているのか。

小島館長）2 年任期の初回に決めて審議していた。

星委員）現在の教育文化会館としては後 2 年程なので、移転先に繋がられる内容で進めてみてはどうか。

小島館長）事業を改善して指定管理に繋がられるか移転した時に委員の皆様の心配な点をどう解決するか等 2 年後を見据えた課題設定は可能である。ただ、意見を全て吸い上げることはできない。様々な意見をいただきその中で何ができるか検討し、できることを実施する事になる

亀澤委員）課題がどのくらいあるのかで決まるのではと考える。

小島館長）各職員の持っている課題や委員の皆様が今後気が付く課題それぞれあるのでいくつとは限定できない。例えば広報についてどう進めるか、オープンスペースの更なる活用方法等色々な課題はある。

竹内委員）個別の課題を検討する中で新たな課題が見えてくることもあると考える。3 館様々な対象の事業を実施している中で広報は重要であるとする。労働会館との統合についての内容も良いと考える。

山澤部会長）個別の課題で進めると新たな意見も出てきて良いと思われる。今期は個別のテーマで進める形をお願いしたい。

小島館長）第 2 回目の会議では委員の皆様から急に課題について意見を貰うのは難しいと考え事務局からの提案で「貸館における飲食」についてご意見をいただきたい。会議室等を利用する場合、水分補給を除き基本飲食禁止であり料理を持ち寄っての利用はできない事になっていて 1 階のオープンスペースのみ軽食可能としている。移転する施設は労働会館の機能も担っており飲食可能なスペースが増える予定である。市民目線から、貸館の中での飲食のあり方について次回ご意見をいただきたい。

（４）今後のスケジュールについて

年 4 回で進める。ただし 2 月の専門部会は市民自主学級・自主企画事業の選考会になる。

第 2 回 令和 6 年 9 月 20 日（金）13 時 30 分～

9 その他

10 閉会